



花を持たせてみた（本人は虫の方がお気に入り）



水辺のエゾノカワヂシヤ

帰りかてら、自分だけ JR を上野幌でおりて、厚別南緑地などを回りながら帰ることにする。しかし、この辺も林内のメジャーな花はほとんど終わっており、マイツルソウの終わりかけやらオニシモツケのつぼみやらを強引に記録する心境がよく分かった。6月中旬の開催に札幌周辺から不満の音が強く出る理由を実体験した。

戻りながら本部の坂本さんに電話して、中止したグループが2つほどあっただけで持段問題なしと聞き、ひと安心して終了。

2日目は丹羽と交代で本部へ。といってもすることないので、ホームページ関係の

確認など。午後からはポツポツ速報も入り始める。前回のように翌日朝刊に速報と言うムチャ進行ではないので、ファクスとホームページを見ながら入力の準備をゆっくり始める。しかし、今回は予想通りホームページ利用者が多く、速報の結果はどんどん集まる。エンビジョンの田中さんにいろいろ用意してもらっていたので、結果もすぐにランキングや分布図になるので、記事を書くかと思えばすぐに出せたかもしれない。

今後來るファクスは調査館事務所に転送していただくようお願いして戻った。

実施ドキュメント・事務局日誌

渡辺 修

今回事務局を全面的に引き受けたため、準備段階からとりまとめまで、全ての段階に関わることになりました。イベントの運営をどんな感じでやっていたのか、ドキュメント風に紹介してみたいと思います。

● 2006年10月 実行委員会立ち上げ

道新野生生物基金の坂本局長から、前回のフラワーソンの実施体制や資料について確認あり、翌年の第3回のもやることになっ

たので、実施サポートを頼まれる。野生生物基金は局長入れてスタッフ二人体制の上に、局長は2年程度で変わってしまうため、フラワーソン実施時には毎回局長が異なっ

ている。毎度一からということで大変である(お役所のように)。

10/12に準備のために実行委員が集まる。辻井、五十嵐、梅沢、金上、金子、渡辺修と揃うが、元締めの小川さんは来ず…。日程はこの時点で6/16-17に確定。毎回同じ時期にやることに意義があるので、変えづらいというものもある。委員も5年ぶりなので、前ははどうだったか〜と思い出しながらの打ち合せ。

基金からは経費は節約してという依頼。なかなか新聞社も厳しいということで、開催も今回はするが今後保障はできないというスタンス。せっかく5年おきにやってきているので、続けて欲しいが、なかなか慎重。

手引きはしっかりしたものをつくろう、地図は改良しようという提案が出た。ホームページも前は道新メディア局でつくってくれたが、社内では厳しいという話でエンビジョンと新たに作るかという話に。

● 11月には各地域のアドバイザを集めた会議をするということで人選。基本は前回の引継ぎだが、釧路の新庄さんは忙しいということで高嶋さんを推薦、札幌地区も増やしたいということだったので、開拓記念館の水島さんを推薦。調査館のスタッフもということで丹羽も札幌地区アドバイザに。

● 2006年11月28日 アドバイザー 合同会議・懇親会

アドバイザ会議に渡辺修と丹羽で行く。全道から植物に詳しい人たちが集まってなかなか壮観だが、部屋が狭くて全員座れない(笑)。前回の課題を出してもらおう。締め切りが早かった、応募状況が途中で分かれば地域内で声掛けできる、前回参加者にも

連絡を、など。今回はウチで広報もやるので組織的に効率的にと思う(途中経過もネットでは頻りに、郵送では一回入れることができた)。

使用する地図については、金子さんが北海道地図の協力を取り付けて自作。前回のものは環境省のメッシュ図で、非常に古い地図で分かりにくいと不評だったが(そもそも地形図を見慣れていない人にはロードマップみたいなほうが良かったのだが)、今回はかなり新しい情報が入り見やすいものになった。

● 2006年12月 ホームページの打合せ

酪農大学で金子さん・エンビジョン田中さんとホームページの打合せをする。前回のシステムを道新からもらってきたので、それをベースに構築。ドメインはflowerthon.netで5年間レンタルし、次回まで維持できるようにしておく。前回のサイトは一応一部残っているものの分りにくくなってしまっていたので。金子さんはせっかくだから、いろいろ試したいと意欲的。

● 事務局体制の準備を始め、フラワーソン専用のアドレス、連絡用のアドレスなどを準備してもらう。基金との連携がスムーズになるように。

● 広報のスケジュール確認。道新紙上では元旦号で最初の告知、その後ひと欄・日曜版などもチャンスあるので案内する(ひと欄に辻井先生、日曜版に梅沢さんの連載が載った)。3月に募集開始するので、そのときまでにパンフレット、4月にアドバイザ会議やるのでそのときまでに手引き、5月

北海道フラワースン 2007

◆ 会員ログイン
参加者の皆様はこちらからログインしてください
ユーザ名:
パスワード:
パスワード再入力:
パスワード再入力:
◆ フラワースンとは
あらまし
意義、目的
歴史
実行委員・アドバイザー名簿
◆ 種名問い合わせ用掲示板
種名問い合わせ用掲示板
◆ 情報共有掲示板
情報共有掲示板
◆ 何でも情報交換
携帯電話からでも投稿

野の花が一斉に咲き競う6月。グループで花探しに出かけませんか。咲いている花を記録して、道民みんなで北海道の自然の移りかわりを考えてみませんか。北海道新聞創刊65周年、北海道新聞野生生物基金設立15周年記念行事として、「北海道フラワースン2007」が開催されます。

6月16日(土)、17日(日)の2日間、北海道全域で野の花の一斉調査を行います。野草に関心のある方なら誰でも参加できますので、ぜひご応募下さい。調査グループを3月から募集します。

結果登録は終了しました(7/9)。採集結果を整理・分析中で、10月中にまとめ本が発行されます。このホームページでも結果を紹介しますので、しばらくお待ち下さい。(10/5)

講演会があります。10月22日(月)18時から、道新ホール(札幌市中央区大通西3)にて。お問い合わせは野生生物基金へ。

ホームページは今も健在 <http://flowerthon.net/>

に各地の説明会なので、地図・調査用紙など配布物全てを。他所に頼んでも高くつくので、全部自分でデザイン・編集。実施後も集計や報告があるので、一年中フラワースン色の予感。しかし坂本局長が今回はいろいろと丁寧に対応してくれるので仕事は大変やりやすかった(前回の谷さんは何につけてもゴーンだったから…汗)。

● 2007年1月 セイヨウオオマルハナバチの調査追加検討

丹羽の提案で、セイヨウオオマルの調査を特定種に入れてみてはどうかと提案。すでに道内あちこちで市民との連携を進めている東大鷲谷研の菊池さんにアドバイザを頼み、企画として入れる。前回のアンケートでもプラスアルファの調査に意欲的な人が多かったし、花と関連性も高いので、企画テーマとしては面白い。ただ同定など調査方法が課題なのと、新たなものを入れるのに委員や道新が積極的かどうかということ

とで、ネゴ開始。方法はとにかく簡易にするが、心配なのは全然見つからないことで、在来のマルハナを合わせて記録するのがいいかななどと模索する。特定種シート全般にそうだが、個人的にはどんな人、どんな場所でも参加できる要素があることにこだわっている。「これあった」と〇書ける花が一つはないとさみしいので(マイヅルソウやホオノキがそれを担ってマス)。

結局マルハナは今回の企画ということを入れてみようということになった。直ちに特定種シートに組み込んでデザインする。解説の用紙は菊池さんに用意してもらうことにする。菊池さんたちと連携してセイヨウオオマルについて積極的に記事化していた山本牧さん(道新旭川編集委員)にも相談して、加わってもらう。

● 1/22 専門部会

細かい内容を詰めるために「専門部会」と称して、五十嵐さん・金子さんと呼んで打合せ。今回は坂本さんのコネでサハリンでも同時に調査することになった。遊びでロシア語版特定シートも作ってみることにする。パンフレットについては、種数を競うことが主眼でないことなど、説明を入れることに。前回の広報パンフレットは委員・アドバイザーの名前がでかでかと載っているだけで、調査自体の説明があまりなかったので、イメージが湧くように編集する。

● 2007年2月 実行委員会

実施内容について検討。前回札幌では参加者多すぎて、説明会が大変だったので2回に分けることを提案。東西別にして。セ

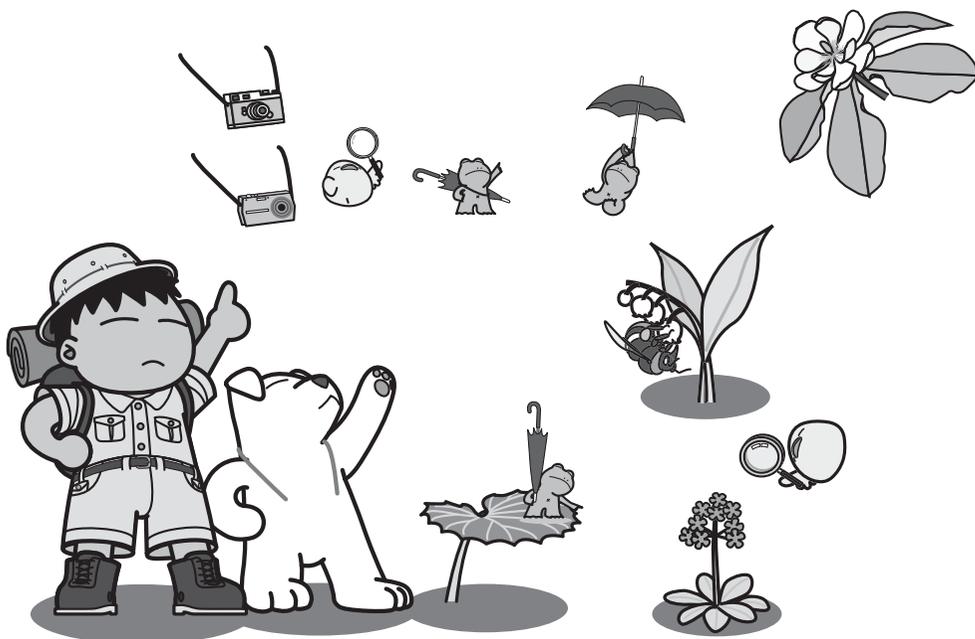
イヨウオオマルはやる方向で調整がつく。試験的にやってみて、よければ継続するというに。調査シートの記号を「開花は○、つぼみは△」に修正。道新からは子ども向けの記念品など欲しいという意見。成績表みたいなものを全員に送りたいと話す。

● 2007年3月 広報開始。パンフレットができて、前回参加者やアドバイザーに送付。環境サポートセンターや博物館など各所にも置かせてもらう。ウチが事務局になるので、何とんでも、参加者数の前回越えをしたいと意気込む。事務仕事は大変になってしまうわけだが。ホームページもオープンし、自分で記事も少し書く。

● 参加者からの問い合わせも来はじめる。「一人しかいないのだが、どうやって参加したら」という問い合わせも意外と多い。「どこに案内出ているんだ」という道新読者じゃない人も。

● 手引きと調査用紙の製作に取り掛かる。手引きは前は白黒ワープロ文章だったが、今回はカラーできちんと編集したものを作る。おまけコーナーで見分け方も入れたいので、梅沢さんに写真や検索図譜の相談。ハコベなど、6月に良く見るものについて新作を作成した。

● 各地での説明会の日程と担当者が決定。前回はそうだったが、全道15会場に委員が説明に行くというのは豪勢だが、なかなか大変。委員は皆さん忙しい人ばかりで、5月の土日全てを埋めて実施してもなかなか調整がつかない。マルハナのこともあり、なるべく大会場は自分が説明したいので、渡辺は旭川・帯広・北見・札幌×2を担当（おかげでカタクリサミット行けず）。それ以外の会場に行く委員やアドバイザーにもいろいろ伝えなければいけないので、打ち合わせや説明文書作りもバタバタ。



手引きや報告書のイラストは開拓記念館の水島さんが描いたキャラクターをフラワーソン用にカスタマイズ

● 2007年4月 応募状況は今ひとつ。ホームページ経由が多いのはうれしいが（最終的に45%）、それ以外があまり来ない。特集記事を打つので、興味深い点など原稿を準備。見開きで出るのでこれに期待。

● 4/20 アドバイザー合同会議

開催を控えて2回目の会議。しかし、皆集まるのはこれが最後ということとちょっと残念でもある（全道から来てもらうのはコストもかかるのでやむを得ないが）。手引きの原稿などで説明。東大の菊池さんも来てくれて、セイヨウマルハナについて説明する。応募状況を説明し、今ひとつ少ない道南や留萌、釧路などで広報を頑張ってもらおうようお願いする。

● 2007年5月 GWは出かけていたが、旅先でも募集状況が心配でサイトを確認。案の定、駆け込みで応募がどんどん増えている。結局4/30締め切りを延長して、5月中旬まで様子を見ることに。その結果、グループ数450、参加者総数2600名という最大規模の参加を達成することができた。特に前回は約1800名と第1回より大幅に少なかったので、回復できてよかった。都市部に偏っていて心配だった調査地区数も説明会での調整を経て550地区と前を上回り、これも安心。地図がさみしくなるのは避けたい。

● 5/12 旭川説明会

地方説明会が旭川からスタート。坂本さんと行く。40名くらいが参加。地元塩田さんは手配よく、いろいろと準備して



2007/4/11の北海道新聞記事

「ここに注目！」ということで前回のおさらい

くれたのでかなりスムーズに行く。参加記念のファイルケースなど、かさばるものが多いので地元委員は結構大変。旭川道新の山本さんも来て、ハチとヒグマの話を知りやすく。手引きの裏表紙にいくつかミスがあり、目ざとい人に毎回チェックされたが、間違い探しということにしておく（笑）。

欠席されてしまうと直接説明できないし、資料の送付代はかかるので、なるべく参加して欲しいのだが、まずまずの参加率で安心した。人によっては都合に合わせて、遠い別会場に来てくださることもあり、大感謝。

● 5/19-20 帯広・北見、5/26 札幌説明会

帯広から北見という長いコースの説明会。帯広から北見という長いコースの説明会は、梅沢さんと。道内の自然系講演会では一番人気の梅沢さんが説明人であるというのはなかなかないことだ。参加者もサブライズで、あれっ梅沢俊さん...?!と驚いて



帯広のホテル前で梅沢さんが見つけた
ツキミタンポポ（外来種）

いる人が多数。「新北海道の花」を5冊ほど販売用にご本人が持ってきていたが、あっという間に売れていた。サインももらえるのだし当然か。こちらでも用意してあげればよかった。

帯広は地元の若原さんと。手伝い人も連れてきてくれていた。ここはお互い見知ったグループが多く、空いているエリアが多いと分かるとお互いにテキパキと分担して解消してくれた。さすが十勝の結束（笑）。

北見は地元の伊藤さんと。ここは斜里など遠いところの人も多いが良く来てくれていた。ここも集中しているところは分散してもらった。移動途中では本別公園をちょっとのぞきに行ったり。長いコースでしたが、楽しめた。

札幌は2部制にしたが、かなりの人。辻井先生も来られたので、説明はやっていただき助かる。ここは参加者が多く、空いている場所はほとんどないが、遠隔地へ行くという人が山関係を始め多く、地図の配布などバタバタ。ウチからは丹羽が行けないため展君を助っ人に。

● 2007年6月 いよいよ開催月

開催月なのだが、説明会に使った資料の

戻りが遅くてあせる。欠席者に送らなければいけないのである。ただアドバイザが直接配ってくれたところもあった。金子さんは酪大学科の3年生全員に参加させるということで、独自の説明会を準備、資料を渡す。教官入れて110名以上という参加者数で盛り上がるなと思ったが、3日前に学内で伝染病が出て学校閉鎖⇒全員不参加に…、残念でした。

● 紙面では7/20頃に特集記事、7月はじめに速報記事ということになる。前は谷さんが強引に翌日朝刊に速報打てということで、当日は道新に残って入力・集計をする羽目になったので、今回は良かった。だいたい翌日朝刊に載せるとか、選挙並みである。そんな速報性は必要ないって（笑）。そもそも当日・翌日は支社では開催の様子を記事にするので、内容に困ることはない。それでもデータをというのは記者出身の谷さんらしかった。

● ホームページも結果入力ページの準備を始める。1週間前にテストを始め、試しに入力してもらいながら修正する。前日深夜にテスト結果をリセットして準備完了っ。田中さんお疲れでした。

● いよいよ当日

詳しくは各人の体験記で。結果報告は初日に第一号が。胆振のサリカリアだそうで、前回もそうだったような。

● 終了後は結果入力に関する問い合わせがたくさん。ホームページはやはり戸惑いが多いよう。特に種名リストが多い人は1種ずつは面倒になる。ファイル・メールで送っ

てくださいとお願い。使いづらい、よく分からないという意見は多いが、年配の人にはホームページ・パソコンにふれるいい機会にもなったのではないかと思う。ホームページの速報集計は、どんどん結果が蓄積されており、毎日見るのが楽しみ。植物名が分からない人向けに立ち上げた掲示板での質問コーナーもまあまあ盛況で、丹羽を中心に対応する。

● 6/20 ラジオ収録

協賛の一つ Air-G の番組で取り上げてくれるということで出演することに。高山アナがパーソナリティの日曜日放送の道内の人を紹介するコーナー。20分だが、音楽かけたりCM入れるので、5分、5分、5分くらいの配分とか。スタジオに行って収録をする。録音といっても、ほとんどそのまま流すということで、以前のNHKの生放送と変わりはない。ただスタジオなのでちょっとどきどき感はあった。どうしてこういう仕事はじめられたのかとか、自分や調査館の紹介なども。事前に簡単に打ち合わせはしたが、ほとんどアドリブ進行なので、綱渡りじゃべっている気分だった。あまり中身のある話はできなかったが、結果もほとんど出てないのでしょうがないかも。2回ほど「今週は天気良くて暑かった



くらいなんで」とつい言ってしまった。放送は一週間後なのに。ディレクターが「何とかします」といっていたが、何とかなるんだろうか。

放送自体は寝過ごして聞くことができず（まぬけ）。坂本さんも丹羽も聞いてなかったとか。まともになっていたのかどうかも分からず。

● 速報記事について、山本さんと打ち合わせ、7/1 朝刊に掲載。書きやすいということで、セイヨウオオマル中心の記事になってしまった。東大の結果と重ねた図もつけてもらったが、思ったより報告数が多く、結果の一致率も高く、満足できる結果となった。その上、野付半島など根釧地方や、士別などでの新規確認地域も初めて分かり、増えているのは良いことではないが、市民調査の力を実感できたのは良かった。

2007/7/1の北海道新聞記事。密かにちびまる子ちゃん連載開始と一緒に紙なのだ（2面にカラーで掲載された）

外来種 身近に浸透



「外来種」が身近に浸透している。北海道新聞が、今年も「外来種」の調査を実施した。調査の結果、北海道各地で、外来種が確認された。調査の結果、北海道各地で、外来種が確認された。調査の結果、北海道各地で、外来種が確認された。

報告があった地区の分布



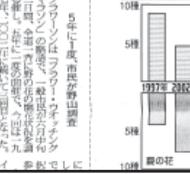
報告された花の種類
 ■ 100種以上
 □ 50~99種
 □ 1~49種

参加者などの情報

項目	数	割合	数	割合
参加者数	674	100%	674	100%
調査員数	636	94%	527	78%
報告グループ数	473	70%	363	54%
参加者数	674	100%	674	100%

参加最多2600人

夏季の進み具合の比較



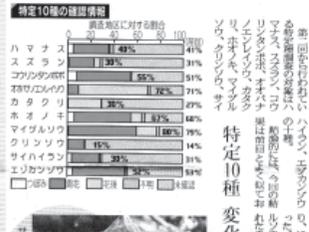
今回も「夏の花」優位

樹木の花多く報告

「外来種」が身近に浸透している。北海道新聞が、今年も「外来種」の調査を実施した。調査の結果、北海道各地で、外来種が確認された。調査の結果、北海道各地で、外来種が確認された。調査の結果、北海道各地で、外来種が確認された。



ハイケイソウを観察する子どもたち（札幌南）



2007/8/2の北海道新聞記事・見開きで特集。「外来種身近に浸透」のタイトルは微妙だが、前回「1133種確認」とデカデカと書かれたよりはまし。

● 2007年7月 特集紙面について打ち合わせ。他の仕事も忙しくなってきたのでバタバタであるが、何とか月末の掲載に向けて原稿作成。参加者報告も4つ載せたいというので、地域ごとに熱心に活動しているところを推薦する。出張中も携帯でやり取りしながらバタバタ作成。新聞社の方は参院選が重なり、紙面の状態がどうなるか分からないという事だったが、予定通りに掲載された。

● 2007年8月 実行委員会

結果の速報を持っていく。報告書の編集や10月予定のフォーラムについて打ち合わせ。各自記事を書くことに。ロシアからの写真や結果もようやく入手。リストは変な種も出ていて、五十嵐さんに統合したり削

除したりのチェックをしよう。

● 2007年9月 フラワーソン報告書製作

報告書は10月にある講演会に間に合わせたいということで、9月の編集製作となる。しかし、実施から2ヶ月ちょっとしか猶予がない。しかも7・8・9月とモロにフィールドシーズンである。札幌にいないときの方が多いのにどうやってつくるねん。と思ったが、前回の編集に不満だったこともあり（というか原稿がひと段落落ちていたり、妙な見出しが付いたりという問題あった）、「いややみましょう」と請け合ってしまった。もちろん原稿は他の委員も書いてくれるが、データの集計と作図と編集とデザインを一人でやらなきゃならない。ちな

みに5年前は集計と作図と執筆だけだったし、11月が編集のみだった。前回の経験があるので、ちょっと早足にしても転ばないだろうという読みだけで、何とか乗り切ったが、坂本さんや印刷のアイワードさんには世話かけてしまった。



● 2007年10月22日 フラワーズン講演会

基金が毎年道新ホールで開いている講演会のテーマにフラワーズンを選び、小川さん、梅沢さん、五十嵐さんと渡辺が講演。梅沢さん効果か、かなりの人が来ていた。



役割分担としては、渡辺は今年の結果についての紹介。とかく温暖化や開発問題に結び付けがちだけど、じっくりやっていきましょうという話をする。ちょいマスコミ批判(新聞社主催なのに)。

● 報告書の印刷が終了、参加者に結果シートと合わせて発送する。かなりあわただしかったが、実施から4ヶ月で大きな区切りをつけることができた。委員会立ち上げからはほぼ一年。参加者には分かりにくい点や不満な点もあったとは思いますが、楽しんでいただけた部分もあると思うので、反省しながら次回へつなげていきたい。関わったみなさん、本当にお疲れ様でした。

マスコミの予断を持って取材する姿勢を皮肉った講演の落ちが右の記事。講演会で『渡辺代表は「外来植物が増えていることがわかった。早く分かれば対策も立てやすい」と成果を語った』そう。こらこら、挑戦的だなと思ったら、書いた記者さんは途中で席を立ったため、予断でまとめたそう。あれれ。(記事がくしゃくしゃなのは頭にきたから...ではなく、管理が悪かっただけです。念のため)

